

WS 6	<b>自己と他者・社会を見つめる作家紫式部</b>			
	【定員】30名 【受講料】2年・1年会員ともに18,530円 聴講生20,080円			
	『歴史・文学・人間学』【ワークショップ】人間学 【時間】 毎回 15時00分～17時00分（計12回）			
概要	『紫式部日記』の要所要所を読みながら、『源氏物語』との関連性を考えるべき個所では物語をも読み合わせつつ、自己と他者そして貴族社会の現実を見つめる紫式部の作家像を明らかにしたいと思います。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/ 3(木)	川崎市 生涯学習 プラザ	紫式部の生涯概観	東京大学名誉教授 藤原 克己
2	10/10(木)		日記冒頭部分を読む	
3	10/17(木)		日記の文章に見られる『源氏物語』と共通する思惟	
4	10/24(木)		紫式部の憂愁	
5	10/31(木)		他者と共感共苦する紫式部	
6	11/21(木)		里居の記—物語に熱中し友達と文通した往時の回想	
7	11/28(木)		清少納言評等	
8	12/ 5(木)		紫式部と漢文学	
9	12/12(木)		藤原道長と紫式部	
10	12/19(木)		藤原実資と紫式部	
11	1/16(木)		『源氏物語』と漢文学	
12	1/23(木)		零落する女君と〈婦人苦〉の主題	
連絡事項	テキストは、山本淳子訳注『紫式部日記』（角川文庫 1,000円）を使用します。各自でご用意ください。			